

第 57 回 湘南科学史懇話会

遊行かぶきと、その周辺を語る－中世説経節、踊念仏について

講師： 白石 征さん（劇作家、遊行舎主宰）

●講演概要

一遍上人ゆかりの時宗総本山、遊行寺本堂で毎年行われる遊行かぶきは、すでに藤沢の「芸能風物詩」として、またわが国の文化復興の根っこを担うべきユニークな地域文化として、近郷近在はもとより、東京や遠方からも広く注目が集まっています。

「中世の血なまぐさく、おどろおどろしい、けれどもどこか懐かしい情念の世界が、遊行寺の雰囲気とマッチして、不思議な世界へと誘ってくれる」末木文美士（仏教学）

「生者と死者、冥界と彼岸の混淆するドラマを、寺山修司の流れを巧みにとり入れて、ユニークな地方発信の地霊（まつり）の演劇として、すでに多くの人々に浅からぬ感動を与え続けている」山口昌男（文化人類学）

そこで今回は、昨年大好評を博した「さんせう太夫」をはじめ、「小栗判官と照手姫」や「しんとく丸」など、かずかずの遊行寺かぶきの脚本、演出をてがけてきた白石征さんが、その成り立ちから現在に至るまでの軌跡を現場の目で語ります。中世芸能のもつ民衆神話の復活をめざす遊行かぶきのコンセプトと主題について、舞台映像や貴重な資料を参考にしながら紹介していきます。

と同時に、中世芸能のトポスとしての藤沢がもつ歴史的な記憶や、やはり中世芸能の水源ともいえる説経節の物語がもつ感動の源泉、つまり「別れと再会」「死と再生」といった民衆芸能の神話的テーマが、いかに現代の映画、演劇などにまで連なる水脈としても流れているかなどという点にまで語り及びます。聞き手は、藤沢在住の作家新戸雅章さんです。

●講師プロフィール

白石 征（しらいし せい）

1939年、愛媛県今治市生まれ。編集者として、寺山修司に関する書籍を多数出版、「寺山修司著作集」全5巻を山口昌男と共同監修。著書「新雪之丞変化」「小栗判官と照手姫」。

1990年、演劇の世界に転身。「新雪之丞変化—暗殺のオペラ」、「落花の舞—暗殺のロンド」を作・演出。

1996年、藤沢遊行寺を拠点として、まつりの演劇〈遊行かぶき〉を提唱、演劇活動を本格化。「小栗判官と照手姫」「一遍聖絵」「しんとく丸」、「中世悪党傳」三部作などで高い評価を得る。他に花田清輝「泥棒論語」「ものみな歌で終わる」、寺山修司「十三の砂山」、泉鏡花「爪の涙」、幸田露伴「五重塔」も舞台化している。2011年、遊行かぶきの最新作として「さんせう太夫—母恋い地獄めぐり—」を発表。さらに今年は説経節「信太妻」より「葛（くず）の葉」を予定している。

●日時：2012年4月21日（土）午後2時30分～6時00分

●会場：藤沢産業センター（藤沢NDビル）8階 第3会議室
〒252-0052 藤沢市藤沢 109 番地（湘南NDビル7階）
電話 0466-21-3811 JR・小田急藤沢駅（北口）徒歩2分
<http://www.cityfujisawa.ne.jp/center.html>

●参加費：1000円

●連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会代表）

〒242-0023 大和市渋谷 3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 email shujiino@js6.so-net.ne.jp

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>